



5/25 (水) 大切な命と財産を守ります。

6月1日から全ての住宅で「住宅用火災警報器」の設置が義務付けされましたが、浦添市婦人防火クラブのメンバー約60人が市内の大型スーパー5か所でその普及啓発活動を行いました。同クラブの宮平貴美子会長は「浦添市民の生命と財産を守るためのピラ配りです。義務化を知らない方もいるので、このチラシを見て設置して欲しい」と、話しました。浦添市の設置率は平成23年3月末現在で約63%となっています。まだの方は早めの設置をお願いします。また、同クラブでは、今回の活動と併せて東日本大震災の募金活動も行いました。



5/25 (水) 退職自治会長に感謝状

昨年度退職した自治会長への感謝状贈呈式が市役所で行われました。今回市長から感謝状が贈られたのは、2年間自治会長を務めた前田公務員宿舍自治会の新里幸代さん、12年8か月務めた浦城自治会の玉城英子さん、1年3か月務めた浦添市街地住宅自治会の中下征夫さんの3人です。代表して挨拶した新里さんは「懐かしい思いと、苦勞した思いが込み上げてきた。自治会にはそれぞれのカラーがあり、いいところを伸ばしていくのが自治会長の仕事。新しい自治会長は頑張ってください」と、述べました。



5/24 (火) 養蚕絹織物の浦添ブランド発信

本市の養蚕絹織物事業の拠点となる施設「サン・シルク」の落成式が、伊奈武瀬で行われました。この施設は1階が蚕の飼育や製糸、桑や蚕の関連商品開発を行い、2階は浦添の絹織物「うらそえ織」の生産、展示が行われています。この施設の完成により、養蚕事業と絹織物事業がより効果的に連携できる環境となりました。市長は「養蚕事業では絹糸のほか、化粧品やお茶など付加価値の高い商品開発も期待している。『うらそえ織』は市民から愛される浦添ブランドとして定着するよう願っている」と、述べました。施設は一般見学も可能で、展示・販売も行っています。是非お越しください。



6/9 (木) モリスの美の世界へ

19世紀のイギリスの工業デザイナー「ウィリアム・モリス」の作品展が浦添市美術館で開催しました。同展では、世界の近代デザインに大きな影響を与えたモリスとその仲間の作品からスタンドグラス(再現作品)や壁紙、染織物など約80点が展示されています。開催前日には、浦添工業高校デザイン科の生徒約40人を招待した開会式が行われ、生徒達は熱心に作品を鑑賞していました。スタンドグラスを前にした生徒は「神々しくて見た瞬間、作品にひきつけられる。絵とは違う美しさがある」と、話していました。同展は7月24日まで開催しています。



6/4 (土) 浦添から横綱誕生を期待

浦添市民相撲場の拡幅整備工事が完成したことに伴い、その記念式典が同相撲場で行われました。この事業により新たに補助相撲場、更衣室、シャワー室が設置され、観覧席および屋根の拡張も行われました。市長は「今回の拡幅整備により、今まで以上に力を発揮できると思う。将来、浦添から横綱が誕生するよう期待したい」と、挨拶しました。式典の後、「第24回わんぱく相撲浦添大会」が行われ、市内の小学校11校から選ばれた約230人の児童が白熱の取組を繰り広げ、会場を沸かせました。



5/23 (月) 「輝くてだこ市民賞」創設

スポーツ、文化その他の分野で活躍し、顕著な成績を収めた市民や本市を活動拠点とする団体などを表彰するため「輝くてだこ市民賞」が今年度より創設され、初めての表彰式が行われました。今回表彰されたのは浦添工業高校2年生の2人で、全日本ジュニアレスリング選手権大会で85キロ級優勝の与那覇竜太さん(表彰第1号)と63キロ級優勝の屋比久翔平さん(表彰第2号)です。式の中で2人は、表彰を受けた喜びと、8月にハンガリーで行われる世界ジュニア選手権への意欲を語っていました。2人の今後の活躍が期待されます。



5/17 (火) 悩まずに、まずは相談を

「民生委員・児童委員の日」活動強化週間の出発式が市役所で行われました。民生委員とは、地域における生活上の悩みや福祉問題について様々な相談支援活動を行うボランティアで、児童委員も兼務しています。厚生労働大臣から委嘱を受けて浦添市では111人が地域の身近な相談相手として活動しています。出発式で同連絡協議会の我部政義会長は「民生委員・児童委員は常に地域住民の立場に立ち、安全で安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。この活動を一人でも多く知ってもらいたい」と、挨拶しました。